

ノイエスだより

ノイエス朝日
(朝日印刷工業株式会社)

群馬県前橋市元総社町73-5
 TEL 027-2555-3434
 FAX 027-2555-3435
<https://www.neues-asahi.jp>
 Communication House
 NEUES
 ASAHI

様々なものが値上げになっています。光熱費をはじめ材料費の高騰が響いているようです。生活に直結する光熱費や食費が上がることは大変なことですが、普段の生活とは関わりのない分野でも材料費や製造費を維持できずに生産中止になるといった製品が増えていることがとても残念だと感じています。

例えば印刷会社としては紙の価格高騰は大変な問題ですが、それよりも最近お客様が選んでくださった特殊紙が「廃版」や「廃業」により手に入らないということが頻繁にあります。紙見本帳の整理も追いつかないような状況です。自費出版では紙や装丁をじっくり選んで作る方も多く、書籍ではなくても当社に来るお客様は名刺やポストカードも紙などに拘る方が多いので、なおさら「廃版」に直面することが多いのかもしれない。癖のある紙、個性的な色の紙、扱いづらい紙などは徐々に減っています。そうすると自然とこちらからおススメするのも「ありきたりな紙」が多くなってしまふので、どんな紙が残っていて使い方によっては面白くなるといったような勉強を常にしなくてはいけないと反省しています。

ここ十年ほど、紙や印刷に拘って、様々な印刷方法や紙の種類を普段使いの文房具などで使ってもらおうと、TOCOTOWA (トコトワ) という商品を作っています。中之条ビエンナールのオリジナル商品としてデザイナーとコラボ企画で製造販売したり、近代美術館やアーツ前橋のミュージアムショップで扱ってもらったりしています。しかし、主力で使っていた輸入紙の製造元が廃業するということが、それに代わるような紙を探しているのですがなかなか見つからず困っています。同じようなことがアートの世界でもありそうです。材料の高騰と、希少な製品の廃版が続くので、画材をまとめて買ってあるという声もありました。

機械や工程管理の簡略化とデジタル化で、「オリジナルの商品が簡単にできますよ」というオンデマンド化が進んでいます。印刷でも、衣服や工業製造でも、大量生産大量消費に対抗するものとして、エコでもあるしとてもいいことだと思っていますが、それと同時に「拘ったプロ仕様の少数製造の既製品」が消えてきていることに気づきました。デジタル化と反比例して職人の減少やコスト重視の製造体制の絶対化は時代の流れとしては仕方ないのかもしれませんが、少し寂しいものです。なんでも二極化という流れは社会全体に起こっていることなんだと改めて感じる今日この頃ですが、そんな規制された中でもノイエスやディップスが「特別な何か」をご紹介できるような場所や人でありたいと思っています。

(橋本)

ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

※ご来場の際は、マスク着用と手指の消毒を引き続きお願いします。

住谷夢幻展

— 墨の純粋なことばに狂喜する —

〈企画〉

会期 三月十一日(土)～十九日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

ノイエス朝日での二年ぶりの展覧会です。

若い頃から書き続けてきた詩のイメージを書表現という方法でまとめた展覧会です。生まれ育った東国分の原風景のイメージ、そして青春期の文学や音楽に明けくれた日々、そしてその後の各地での自然災害に遭遇してきた社会の変化を作品に投影した作品です。今回は、昨年出版した「隅屋夢幻の16篇」はなの詩による版画集」に引き続き、若い頃の詩作品を二冊の詩集にまとめました。是非、会場に足をはこんでいただければと思います。

岩井啓二展

— 森は生きている —

〈企画〉

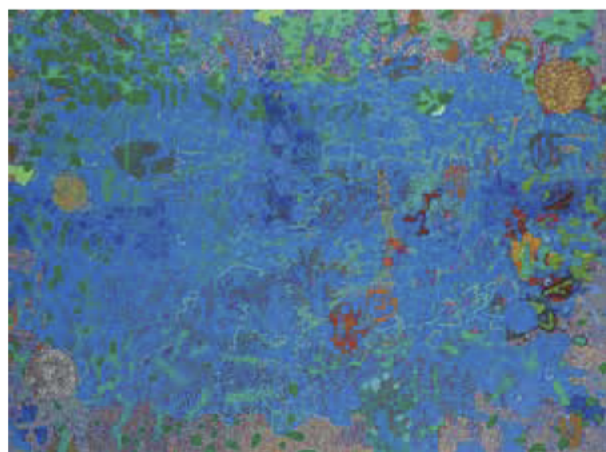
会期 三月二十五日(土)～四月二日(日)

午前十時～午後五時(最終日は午後四時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

主体美術協会に一九七三年より作品を発表しています。

厚塗りの油絵から二〇二二年秋より下地を作った薄塗りに変化し、さらに抽象的な表現から「森は生きている」シリーズから具象的な表現になりました。今回は二〇二一年～二〇二二年の新作を中心にロー画も含め三十数点を展示します。



「漂流記」

ニットソーイング真 第22回 春の作品展

会期 三月二十一日(火)～二十三日(木)

午前十時～午後五時(最終日は午後三時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

お問合せ 027-231-6376 (設楽)